

新善光寺寺報 北 縁

ほくえん

2017年10月

Vol. 36

特集

新納骨堂 完成

～あたたかみと華やかさが
織りなす極上の納骨堂～

十一面観音菩薩

新納骨堂 完成しました ～あたたかみと華やかさが織りなす極上の納骨堂～



新善光寺には本堂地下とさらにその奥の1階、2階と全部で3フロア計1000基ほどの納骨壇があります。昨今終活という言葉が目立ってきてお墓から納骨堂へという流れが出てきています。今までは新たに納骨堂を希望される方には空き待ちという形を取らせていただいていたおりました。そこでお寺の中に新たに納骨堂を作ることにしました。そして誕生したのがこちらの「輝雲台（きうんたい）」です。



ポイント

- ・ 広々としていてゆったりとお参りできます
- ・ エレベーター完備で段差が少ないです
- ・ 窓から中庭を見られ四季折々を感じることができます
- ・ 中央には十一面観音さまをご安置し、包み込む優しさが味わえます
- ・ 納骨壇の色調も鮮やかできれいです

お問い合わせはお早めに

TEL. 011-511-0262 (担当：副住職まで)

新納骨堂のお知らせ

特別壇 本尊横 (10 区画)



収納
12
霊位様

権利金 200 万円
管理費 5000 円

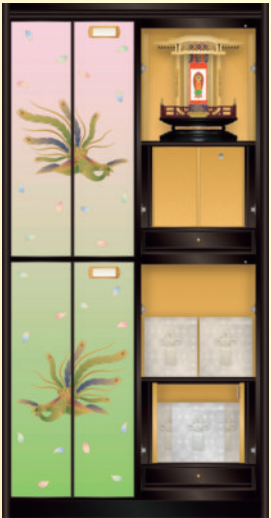
一段型 青 32 区画 桃 24 区画



収納
12
霊位様

権利金 ▲青 150 万円 ▲桃 120 万円
管理費 4000 円

二段型 120 区画 (上段・下段合わせて)



収納
5
霊位様

上段
権利金 65 万円
管理費 3000 円

下段
権利金 55 万円
管理費 3000 円

五段型 115 区画



収納
2
霊位様

1 段 権利金 35 万円

2 段 管理費 2000 円

3 段

4 段 権利金 30 万円 管理費 2000 円

5 段 権利金 25 万円 管理費 2000 円

2年越しの工事が完了しました

前号でお知らせした通り、今年の5月から新たな納骨堂の設置にともない北側建物の外部改修および内部の改修工事をおこない、7月末日に完了いたしました。

明るく開放的な空間をイメージし、木のぬくもりが感じられる廊下にしたり、また、広間をより快適に法事の後のご会食やお葬式にも使っていただけるように畳からカーペットに替えたりしました。

2年前の本堂及び建物外部改修工事から続く新善光寺の整備もこれにて完了です。

今回の工事も、特別にご負担をいただかなく、お檀家の皆様から日頃頂戴いたしております護持費やお布施などの浄財によりおこないました。

皆様には常日頃より新善光寺の護持発展にご理解ご協力賜っていますことを改めて御礼申し上げます。



Before 外観



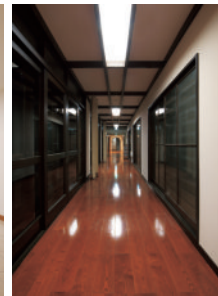
After 外観



納骨堂



納骨堂



廊下



ホール



階段室



広間

より快適に 心こもるお見送りを

新善光寺ではお寺を使った法事やお葬式をお薦めしております。中央区という立地で遠方からの方も来やすく、そして地下鉄「豊水すすきの」駅とほぼ直結と言っていいほどの利便性があります。

今回の工事では会食やお葬式に使っていただいていた広間も改装いたしました。実例を交えて紹介したいと思います。

〈法事編〉

法事をおこなうお部屋は主に2つあり、“光明の間”という部屋の前の廊下を新しくしました。



会食のお部屋は全部で3カ所あります。人数に合わせてお使いいただけます。今回の工事ではカーペットを新しくしました。法要会場・会食会場ともにイス席です。お供物やお花は注文できます。

※会場費はいただいております。



〈葬儀編〉

少人数でのお葬式からおこなえます。お寺ならではの雰囲気のある心こもるお見送りができるかと思います。宿泊も可能です。

※会場費はお部屋により異なります、詳細はお問い合わせください。



じゅう や 十夜法要のご案内

十夜法要とは、浄土宗の最も大切な経典の一つ「無量寿経」の中に、
「此に於て善を修すること十日十夜すれば、他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」
現代語訳 この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功德は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功德よりも勝れている。
とあることに基づく法要です。

11月3日(金)
文化の日

午前11時 薩摩琵琶
お昼休憩
午後1時 法要
(塔婆申込には同封の振替用紙をお使いください)

法要に参加してみよう



まずお寺に入ります。駐車場は手狭なため車は停められないかもしれません。その際は周りの有料駐車場をお使いください。公共交通機関では地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅6番出口がすぐです。



受付をすませましょう。

琵琶の余韻に浸りながら、次はお昼休憩です。皆様の分のお弁当を用意しております。



塔婆を受け取り、水向け供養をします。お坊さんが付いていますのでご安心ください。



本堂に戻り、法要開始です。



演奏がはじまります。本堂に行きましょう。



キッズルームも用意しますので、小さなお子様でも安心して連れてきてください。仏教に関する絵本や、DVDがあります。

※本堂は暖房をつけますが、寒く感じるかもしれませんので、当日は暖かい服装でお越しください。見どころの多い仏教に親しむことができる法要です。多くの皆様のお参りをお待ちしております。

薩摩琵琶演奏 ～琵琶で語り継ぐ、「法然上人御一代記」～

きたはら かなこ
北原 香菜子 (薩摩琵琶・鶴田流)

佐賀県生まれ。稽古場「かなこ堂」(佐賀市大和町) 主宰。

2001年 早稲田大学第一文学部入学時に薩摩琵琶と出会う

2004年 本格的に薩摩琵琶・鶴田流を田中之雄氏に師事

2006年 「くまもと全国方角コンクール」において第1位・文
部科学大臣奨励賞受賞

2011年 浄土宗総本山・知恩院にて「法然上人御一代記」奉納
演奏

2012年 平泉・中尊寺にて「琵琶経(びわきょう)～3.11後の供養曲～」奉納演奏



NHK「芸能花舞台」、NHK-FM「邦楽のひととき」「ラジオ深夜便・明日へのことば」
など多数出演

現在、「かなこ堂」を拠点として、古典曲から創作曲まで、国内外で演奏活動を続けて
いる。



昨年の法話の様子



十夜法要を初めておこなった真如堂



みやびな音色が響きます



一年の行事で一番お坊さんが多い法要です

新善光寺の十夜法要は“ココ”に注目！！

- ・ **双盤念仏** ～長い節を付ける独特のお念仏を唱えます。
- ・ **太鼓** ～木魚ではなく太鼓でお経を読みます。本堂に太鼓の音が響き渡ります。
- ・ **雅楽** ～笙・龍笛・篳篥(ひちりき)の三管による優雅な音色が広がります。
- ・ **回向** ～和讃(歌)を唱えてそれぞれお申し込みのお戒名を一霊位様ずつ丁寧に取り上げてご供養いたします。
- ・ **解説** ～法要ではモニターでスライドを使いお経を解説しながら進めます。

幸せのかたちを求めて～恵心僧都のエピソードから味わう～

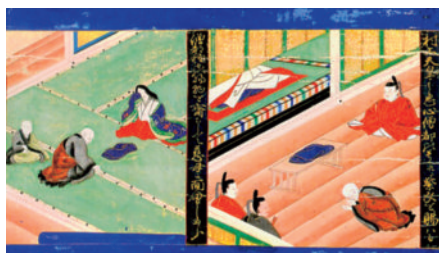
先日、奈良国立博物館で開催されていた「1000年忌特別展 源信 地獄極楽への扉」を拝観してきました。源信和尚（942～1017）は、恵心僧都という名でも親しまれている平安時代中期のお坊さまで、『往生要集』という書物を著されました。『往生要集』の撰述や恵心僧都の活動は、仏教界のみならず日本文化に多大な影響を与えました。『源氏物語』に登場する「横川の僧都」、そして芥川龍之介の「地獄変」に現れる僧も恵心僧都がモデルとされています。また、お念仏を申す私たちにとって、恵心僧都は大変尊いお方です。それは、法然上人（1133～1212）がお念仏の教えを見いだす糸口の一端を恵心僧都が担ってくださったからです。法然上人の主著である『選択集』には、『往生要集』が引用されています。そして、法然上人は「恵心の先徳」と讃えています。先徳とは、すぐれた先輩ということです。恵心僧都なしに法然上人、ひいては浄土宗を語ることはできないと言っても過言ではありません。今回は、そのお念仏の大先輩である恵心僧都のエピソードから私たちの幸せについて案じてみたいと思います。



恵心僧都源信和尚御影

恵心僧都 15歳の頃、時の帝である村上天皇の御前において、仏教の講義を仰せつかりました。この若さでこのような大役を命ぜられるということは、恵心僧都の学識の高さがうかがえます。その講義に感銘された帝は、恵心僧都に褒美として絹の衣をくださいました。それを喜んだ恵心僧都は、母に帝から頂戴した衣を見せ、勇んで報告しました。さぞ母も喜んで賞賛してくれていると思っていましたが、恵心僧都のお母さんは、憂いある顔で次の歌を吐露したのでした。「後の世を渡す橋とぞ 思いしに 世渡る僧と なるぞ悲しき」。母は、この世間の生死の煩いを越えるような真実の御教えの橋を渡ってくれよと愛しい我が子を自分の手から離し、断腸の思いで恵心僧都を出家させたのに、今の恵心僧都は名誉や財力を重んじ浮き世をすいすい渡っていくような僧になっていることが悲しかったのです。この母の姿を見た恵心僧都は、愕然としました。それは、本来、恵心僧都がめざしていたものも、母の思いと同じすべての人が救われる生死の煩いを越えるための真実の道だったのですから。

幸せのかたちとは、人それぞれです。立派なおうちに住むことがそれだったり、結婚すること、孫との楽しい時間、大切な人と一緒にいること、趣味にうち込むこと、悲しみや喜びを共有する人との時間、好きな服を着て楽しむことだったり…。恵心僧都とその母は、自身の幸せのかたちをしっかりと見定めることができました。ブレッド&バターが歌う「幸せの形にこだわらずに 人は自分を生きてゆくのだから」（「あの頃のまま」呉田軽穂作詞）という歌詞が胸に響きます。



褒美を頂戴した恵心僧都が母を訪ねる

〈文：立花俊輔〉

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話⑱

〈無常の世ゆえに大切なお念仏行〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



お彼岸が終わると一気に秋。そのすぐ後ろに冬の近づく音。季節の移ろいの速さを感じる。まさに、法然上人様の無常迅速。儂い露のような人生ゆえに今こそ修行しなければ涙だけを随う身になるという私への戒めのご法語と重なる。上人様は「しっかりお念仏申すように」と多くのご法語を残してくださった。

長男を亡くして心を閉じたままの母の心は、阿弥陀仏のご本願他力によって心は開かれた。そのお蔭様に少しでも応えたくて布教師となった。平成15年、総本山知恩院布教師となり、お念仏のみ教えを伝え継ぐ道を選んだ。

今年の7月21日より26日まで、輪番布教を与えられ京都だった。輪番とは、朝と日中の2席を布教師が法話する仏事である。私は、4回目だった。前回の平成27年の時は、ゴールデンウィーク中だったので、2人の孫を誘った。亡き長男の話伝えて祖母の大役を果たした。毎回感動の出逢いがある。今回も初日、最前列の女性との出逢いだった。話の合間合間に頷き熱心だった。次の日もまた、次の日も彼女は同じ場所にいた。3日目、私の方から声を掛けた。京都の88歳のつぎ枝さんだ。尼僧の法話は、初めてだと喜んでくれた。最終日まで通い続けた彼女に記念撮影を求めた。帰札して写真を送ると、すぐに返事を頂き有難い出逢いだった。さらに、この期間中に写経の講師も体験できた。知恩院では、50年前より月に2回続いている。「一枚起請文」の23日は、80名の出席者だった。熱心な目差しに圧倒された1時間だった。



つぎ枝さんと

写経はお経を書き写すだけではなく、心が癒やされるなどの理由で最近人気がある。新善光寺でも平成28年より月1回おこなっている。お檀家様以外でホームページ等で知って参加する人も含め、平均25名ほどの人々が集う。ここで流れを紹介しよう。2階で受付をし、午後2時お十念後に開始。シーンとした非日常の時間が流れる。本文末にそれぞれのご供養、目的、たとえばご先祖代々、家内安全等を書き、最終行に自分の名前を記入して終了。仏前の経机に納める。全員が書き終わると、納経のお勤めをする。その後、その日のご法語の解説を聴きつつ、茶菓を頂く。心が和らぎ、笑いが広がる。中には、「私は字が下手なので次はどうしようか」という人もある。大丈夫。一字書くごとに仏様が近づいてくださるといふ「一字一仏也」の写経精神を信じて続けて欲しい。

はらはらと 無常を告げる 落ち葉かな

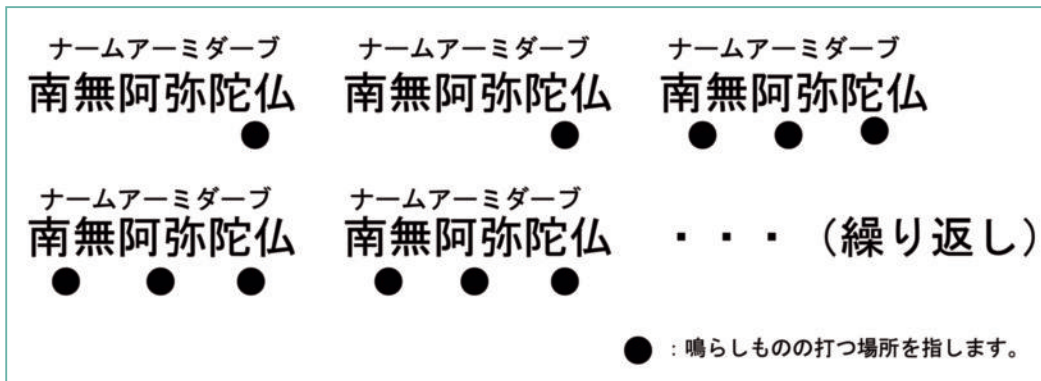
シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑭

今回は浄土宗の信教の根幹的作法「称名念仏」の実践となる「念仏一会」についてお話ししましょう。「称名念仏」は読んで字のごとく、「仏（阿弥陀仏）のみ名を称える」ことです。浄土宗では、「声に出してお称えするお念仏（南無阿弥陀仏）」のことを指します。

・念仏一会

次第の中の「念仏一会」は、「南無阿弥陀仏」のお念仏を数の定めなくお称えしていく部分です。ここでお念仏をお称えするときには、木魚やふせ金などの鳴らしものを使いリズムを取りながらお称えしていきます。打ち方を下図に示します。



浄土宗の法要式では、はじめ二回程度のお念仏に鳴らしものを一打うって称え（これを「一唱一下」といいます）、3回目（もしくは4回目、5回目など）からは、お念仏一回につき、三回鳴らしものを打ちます（これを「一唱三下」といいます）。

音は「ナムアミダブ」と称え、最後の「ツ」は発音せず、飲み込むようにお称えします。リズムを取るため鳴らしものを打ちますが、言葉のあいだを伸ばしてその箇所には打っていきません。実際は「ナムアミダーブ」と発音することになります。

この時のお念仏の回数は「お十念」と違い定められていませんので、お勤めできる時間の長さによって変わるとおもいます。ですから、時間のない時は10回だったり、1分だったりしますが、時間がたっぷりある時は、1時間でも2時間でも称

え続けても良いのです。

回数が多いから良いとか、少ないからダメという事ではありませんが、阿弥陀様、お浄土へ先立ちし方々、ご先祖のことを一心に思いつつお念仏すると必然的に数は増えていくものです。この念仏一会で時間を気にせず、一心に気のすむまでお念仏をお称えすることを是非一度試してみてください。その先にはきつと、晴れやかな気持ち、やすらぎや達成感など、今まで味わったことのない気持ちになれるはずです。

・五種正行

「一枚起請文」の回で少し触れましたが、法然上人は「五種正行」という、極楽浄土へ往生するための正しい行について言及されています。五種、つまり五つの正しい行いは、「①読誦正行、②観察正行、③礼拝正行、④称名正行、⑤讚嘆供養正行」としています。

読誦は経典等を読み誦すること。観察は心をしずめ阿弥陀仏やお浄土のすがたを観ずること。礼拝、称名は阿弥陀仏に礼拝しお念仏すること。讚嘆供養とは、阿弥陀仏の功德をたたえ、香華などをささげて供養することです。

皆さんお寺の法要を思い浮かべてください。お坊さんは「経を読み（＝読誦）」、「ご本堂はお浄土の様相を具現していて（＝観察）」、「阿弥陀様に礼拝し（＝礼拝）」、「お念仏を称え（＝称名）」、「お花やお供えをして仏様を供養（＝讚嘆供養）」していますよね？ 実はお寺の法要はこの五種正行を実践しているのです。

そしてこれらはすべて大切な行ですが、中でも「称名正行」がもっとも大切な行で、法然上人は「これを正定の業と名づく」とおっしゃっています。「正定の業」というのは、阿弥陀様の本願として定められた往生の行いという事になります。これに対して、残りの四つの行は「助業」、つまりお念仏をより一層お称えできるための助けとなる行いと位置づけしています。

ご自宅でもこの五種正行は実践できますが、法然上人は「何よりお念仏をお称えすることが大切だ」という事を体系づけてお示しになっています。念仏一会は日常勤行の中でそのことを実践する部分になっていますので、お勤めの中でも力をいれてつとめてみてください。

今年も胸躍る粋なイベントをおこないました

9月1～3日にかけて新善光寺と東本願寺と中島公園の3会場で第4回「鴨々川ノスタルジア」がおこなわれました。

今年は初めてお坊さんのファッションショーを新善光寺・東本願寺・成田山新栄寺の方達に出演していただきおこないました。他の宗派の方達とふれあえ、わたくしたち自身にとりましても意義のあるイベントではなかったかと思えます。

「札幌芸者衆の踊りを見る会」や「薄野怪談」や「寄席」もおこない充実した3日間でした。

今回のイベントは北海道新聞やNHKなどでも取り上げられ、会場は大勢の方で溢れていました。

また毎週土曜日には、すすきのにあるお寺（新善光寺・東本願寺・成田山新栄寺など）を回るツアーも開催しており、新善光寺では枯山水作りや木魚を打つ体験ができます。



お坊さんの袈裟姿楽しんで 札幌・新善光寺で3日にイベント

札幌・すすきの地区の3つのお坊さんにも初体験のファッションショーが9月3日、新善光寺で開かれ、約100名が参加した。会場は、お坊さんたちの衣装が楽しめるかも初めて開かれるお坊さんのファッションショー「BOZUコレクション」のリハーサルで、決めポーズを練習する出演者ら。いつもとは違ったおちゃめな姿が見られるかも

毎年おこなわれている「鴨々川ノスタルジア」の3日間、お坊さんたちのファッションショーが9月3日、新善光寺で開かれ、約100名が参加した。会場は、お坊さんたちの衣装が楽しめるかも初めて開かれるお坊さんのファッションショー「BOZUコレクション」のリハーサルで、決めポーズを練習する出演者ら。いつもとは違ったおちゃめな姿が見られるかも

お坊さんたちのファッションショー「BOZUコレクション」のリハーサルで、決めポーズを練習する出演者ら。いつもとは違ったおちゃめな姿が見られるかも

華やかに粋に 袈裟お披露目

札幌・すすきの地区の3つの寺の僧侶による初のファッションショー「かもBOZUコレクション」が日々、中央区の東本願寺で開かれ、約100名が参加した。会場は、お坊さんたちの衣装が楽しめるかも初めて開かれるお坊さんのファッションショー「BOZUコレクション」のリハーサルで、決めポーズを練習する出演者ら。いつもとは違ったおちゃめな姿が見られるかも

東本願寺・成田山新栄寺・新善光寺の僧侶たち、金色の緋袈裟や白の袈裟、袴や袴姿を身にまとい、本堂に飾られた10坪ほどの花道を歩いた後、「高僧位の袈裟です」と1人ずつ説明した。

約100人の観客は木魚をたたいたり、拍ましたりして会場を盛り上げた。東本願寺の住持野野宮さん（20）は「お坊さんの衣装はあまりの面白くないので新鮮だった」と笑顔で話していた。

北海道新聞
2017年8月31日

北海道新聞
2017年9月4日

お寺の額縁を紹介します⑨

14 新善光寺蔵 法然上人絵伝 第二幅

前号でも第二幅を紹介しましたが、今回の場面（下図）は、法然上人（1133～1212）が43歳の頃の出来事です。夢の中で法然上人は、善導大師（613～681）にお会いします。その時の善導大師のお姿は、上半身は墨染めの衣で、腰より下は金色でした。法然上人は「どうしてここにおいでくださったのですか？」とおたずねになりました。すると、善導大師は「あなたが専修念仏せんじゆねんぶつのことをおっしゃるのが大変とつと貴いからです」とお答えになりました。さらに、法然上人は「専修念仏の人はみな往生できるでしょうか？」とおききになりました。しかし、この核心にせまる質問の答えを聞けぬまま夢からさめてしまったのでした。

お念仏によって確固たる安心を得るのは、他者にたよって得られるようなものではなく、自らが求め続けてゆく中に得られるのだと、善導大師の無言のお示しなのかもしれません。



来たる11月3日お十夜のお参りの日に、この4幅のお軸を公開いたします。

〈行事予定〉

どの行事もどなたでもご参加いただけます。写経道具は全てお寺で用意しております。

どうぞ心落ち着ける癒しの空間を味わいませんか。

- 10月28日（土） 14時 仏教講座「写経」
- 11月 3日（金） 十夜法要
- 11月25日（土） 14時 仏教講座「写経」
- 12月 8日（金） 13時 仏名会
- 12月23日（土） 14時 仏教講座「未定」
- 12月31日（日） 23時45分頃～除夜の鐘



慈啓会から

慈啓会病院『外来看護室』のご紹介

慈啓会病院は、緑に囲まれた藻岩山登山口の近くにあります。特別養護老人ホームや老人保健施設、養護老人ホームが同じ敷地にあり、外来は「普通に受診できるのですか？」と時々聞かれますが、一般の内科と認知症をメインとした精神科の外来があり、どなたでも受診できます。

内科は、生活習慣病と言われている、高血圧・脂質異常症・糖尿病などで通院されている方が多く、かかりつけ医の変更で来院される方もおられ、「身近な病院」として利用していただいております。

また札幌市の「とくとく健診」をはじめ、各種健診や人間ドックの実施、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンなども対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

精神科は、「もの忘れ外来」への受診希望の方が増えており、社会の高齢化に伴って認知症への不安を抱えている方が多くなっていることが伺えます。当院のもの忘れ外来では、頭部CTと心理検査を行っており、必要時は協力病院での脳血流SPECT検査を実施し、認知症の診断をしております。

受診された時は、病気の相談だけではなく、介護や介護保険について、また施設入所など今後の自分たちの生活への相談を受けることもあります。その際は、医師や地域医療連携室などと連携し、少しでもお役に立てる情報を提供できるよう心がけております。

皆さまが、健康で現在の生活が続けられるための、お手伝いができる外来でありたいと取り組んでおりますので、今後ともよろしく願いたします。

(慈啓会病院 外来師長 関田 眞実)



診療科案内

曜日	内科				精神科 (初診時要予約)	
	午前		午後		午前	午後
月	東出	柏谷	伊林 漢方外来	宮地	片村	片村
火	東出	垣内 胃ろう・ 嚥下障害外来	宮坂 漢方外来	川人 アレルギー・ リウマチ外来	片村	休診
水	東出	木村 消化器病外来	川人 糖尿病外来	伊林 漢方外来	宮坂	片村
木	佐藤 漢方外来	宮地	多羅澤	青木	片村 物忘れ外来	片村
金	垣内 消化器外来	川人 糖尿病外来	井戸川	多羅澤	片村	片村
土	第1)宮地 第4)多羅澤	第2)川人 第5)垣内	第3)木村	休診	休診	—

外来受付時間

	午前9:00 ~12:00	午後1:30 ~5:00
月	●	●
火	●	● (精神科休診)
水	●	●
木	●	●
金	●	●
土	●	休診

社会福祉法人 札幌慈啓会 慈啓会病院

〒064-8575 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6番50号

TEL. 011-561-8292 FAX. 011-551-3862

北縁 なんでも Q & A

いつもご投稿ありがとうございます。このシリーズも徐々に皆さんに認知されてきたのか、おかげ様で投稿内容も色々なジャンルに及ぶようになってまいりました。

今回は前号で頂戴した投稿のご紹介です。

Q：阿弥陀様は先祖供養が主なのですか。心の迷いや病、体の病のことも含めお祈りしているのですが、よいのでしょうか。

A：日本人は祖先を大切にす民族です。お盆やお彼岸に代表するように、我々の命を脈々とおてつぎして下った祖先を敬い、感謝の気持ちを手向けることが先祖供養です。我々は皆、お念仏の功德をもって極楽世界、お浄土へ往生しますので、極楽世界を主宰する阿弥陀さまはご先祖様の代表ともいえるでしょう。そういった意味では、お念仏をお称えることは、ご先祖さまに気持ちを手向けることに通じると思っています。

さて、当病平癒などを祈ることは、仏教的には現世利益といいますが、医学などと違い仏教は直接病気を治すものではありません。一般的には、宗教は人智を超えたものを信ずるとい側面もありますが、浄土宗はお念仏という手法をもって、信をたて、安穏な生活を送ることを旨としています。しかし、「病は気から」という言葉もある通り、人は気持ちの持ちようで病床に伏したり、健全な生活を送れたりするものです。

日々のお念仏は、意味をひも解くと様々な意味合いがありますね。

◇ご感想の投稿

・「葬儀はお寺で」の記事、興味を持って拝見しました。自身の葬儀はお寺でしてくれる様に家族に頼んでいます。

お寺より

よく、葬儀の話を生前にすると縁起が悪いとおっしゃる方がいますが、決してそうではありません。人は必ず命終を迎えます。葬儀は通過儀礼であると同時に残された方にも大変意味ある儀式ですので、ご自身の意思を表明されることも意義のある葬儀にする所以になるものだと思います。

・軽費老人ホーム菊寿園の紹介が大変参考になりました。

お寺より

慈啓会の各施設については、この寺報でもご案内しています。入所の条件などは様々でケースごとによって変わってきます。詳細をお知りになりたい方は、「慈啓会総合相談室」(TEL 0120-83-8291)までお問い合わせください。

宮の沢別院から清璋寺へ

10月8日に清璋寺寺号公称・晋山式がおこなわれました。宮の沢別院建立から早10年、次なる一步へのスタートとなりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。(詳しくは次号特集で)



東京便り

東京別院霊源寺(品川区)で9月25日に秋彼岸法要を新善光寺副住職導師のもと執りおこないました。東京にお住まいの新善光寺のお檀家様もお参りに来られていました。霊源寺では月参りやご法事も受け付けております。どうぞお気軽にお問い合わせください。



東京都品川区荏原1丁目1番2号
(桐ヶ谷斎場真向かい) TEL. 03-3494-1083

編集後記

今年も残すところあと僅か、やっとのことでなんとか発行することができました。ご協力いただきました皆さんに感謝いたします。

私事ですが、8月に第一子が誕生しました。我が子の顔を見ると、愛おしいと思うと同時により一層の責任感が出てきたことを感じております。

次号は1月上旬発行です、より紙面の充実に励んでいきたいと思えます。

新善光寺の情報は随時ホームページやブログなど各種SNSで発信しています。是非ご覧ください。(太田真海)

新善光寺

検索